

大樹の礎

Taiju no Ishizue

発行者：学校法人城西医療学園
日本医療科学大学
〒350-0435
埼玉県入間郡毛呂山町下川原1276
Tel 049-294-9000
URL : <http://www.nims.ac.jp>

日本医療科学大学 学長 佐藤 泰正



新しい年を迎えて

日本医療科学大学の皆さん、御父母の皆様方、お元気で新年を迎えられたことと思います。

本学も、昨年四月に活気溢れる新入生を迎え、これまで極めて順調に過ごして参りました。また、多くの皆様方の御理解・御力添えを頂き、父母後援会が設立され、今後いろいろな面で大学の発展に貢献して下さることと深く感謝しております。一年生諸君も大学生活に慣れ、学業だけでなく課外活動にも力を発揮してくれております。

春・夏のスポーツデー、「大樹祭」(学園祭)も盛大に行うことができました。記念すべき開学の一年目が瞬く間に過ぎようとしております。既にAO入試・推薦入試は終了し、一般入試が始まりました。

そして、四月には二期生となる新入生を迎えることとなります。

新しい年を迎えて、本学の建学の理念である「報恩感謝」の精神を初めとして「努力する心」「誠意、信頼」を学生諸君に育んでもらいたいと思っております。また、本学の教育理念である「ヒューマニズムの精神」「問題解決



能力の養成」はもとより、「市民的教養」として、人文・社会・自然科学に対する教養を身につけること、また、福祉国家の一員としての自覚、情報化社会への対応等の教育に力をいれたいと考えています。

本学に学ぶ学生諸君が、我が国の医療技術の発展に貢献する人材に成長することを心から祈るとともに、地域に開かれた大学、未来に開かれた大学、そして国際的な大学をめざして、さらなる発展のために尽力したいと考えています。

皆様方の御協力を心からお願いし、新しい年の御挨拶にかえたいと思えます。

連続エッセー①

「伝えたいこと」

徳永 千尋

私が作業療法の門を叩いて既に四半世紀になる。この間最も「伝えたいこと」として感じていることは、この仕事は、対象者とともに笑顔を受容する喜びに溢れている職種であるという事である。

まだリハビリテーションという言葉が、あまり市民権を得られていない頃、作業療法は殆どの人達にとってマイナーな位置にあった。しかしながら対象者はれっきとした「人」であり、病人や障がい者、あるいはお年寄りという冠をなくした市井の一員なのである。当然、喜怒哀楽を表出する「人」である。

初めて勤務した時は民間病院であった。まだ学問を修めていない状況で、対象者と対峙した時、何が出来るか?を自問した。そして得られたものは、彼らと自分が笑いあえる場を共有できることの素晴らしさであった。

(とくながちひろ・本学教授)

日本医療科学大学 開学祝賀会開催

六月三十日、川越プリンスホテルにおいて「日本医療科学大学開学祝賀会」が、約三百名の参加を得て、盛大に開催されました。

新藤理事長、佐藤学長の挨拶に続き、埼玉医科大学理事長丸木清浩先生から

の祝辞があり、塚田教学部長によって乾杯が行われました。

歓談の後、中谷教授より開学以来三カ月の大学の様子が紹介され、続けて本年度就任した教員全員が学科、専攻別に壇上に向かって紹介されました。アトラクションとして、全国大会に出場する城西大学付属川越高等学校和太鼓部による演舞が披露され、その力

強さと迫力に、参加者から大きな拍手が湧き上がりました。
新入生保護者代表の挨拶、校歌の披露と続き、同窓会会長による手締めによって、二時間余りの会を終了しました。



第二回 大樹祭

去る十一月三日に行われた第二回大樹祭は、昨年以上に多くの方々に御来場頂き、沢山のお力添えのもと、盛大に開催されました。

えた学科紹介や青島健太客員教授による講演会（要旨別掲）などを通して、普段一緒に活動することの少ない他学年や他学科の共同作業や、地域の方々、放射線医療や理学療法・作業療法を御存じの方だけでなく、初めて触れる方たちまで、幅広い方々と生き生きとした触れ合いを持つことができたと思います。

りました。

今回の大樹祭では「融合♡YOU GO!」をテーマに掲げ、参加型のステージや様々な模擬店、わかりやすく体験も交

長い時間をかけて準備してきたことが、大樹祭当日につながり、皆様楽しんでいただけたこと、その一員として味わえたことを嬉しく思います。

また大学として新しい取り組みを盛り込んで、今年以上にたくさんの方々楽しんでいただければと思っています。

第二回大樹祭実行委員長
理学療法学科2年

遠藤 善弘



『よわいこ』の、 城西医療連が参加

八月十八日の第七回「坂戸よさこい」と、十一月二十四日栃木県茂木町ツインリンクもてぎで開催された「秋のふれあいフェスティバル」に、専門学校・大学の約七十名で組織した「城西医療連」が、よさこいの演舞を披露し、それぞれのお祭りを盛り上げました。

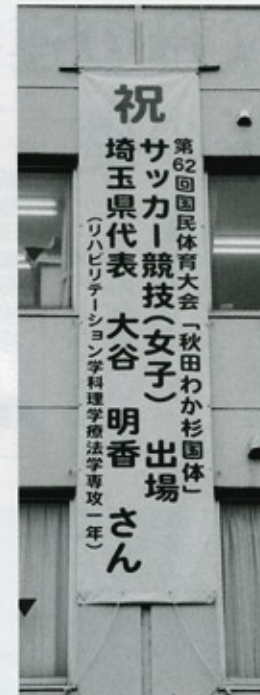
練習時間の少ない中、工夫して練り上げた振り付けに、沿道からの大きな拍手を受けていました。



埼玉県女子サッカーチーム 秋田わかすぎ国体で3位入賞！

本学ホームページにも紹介されているとおり、十月に秋田で行われた「わか

かすぎ国体」において、埼玉県女子サッカーチームのメンバーに選ばれた、



理学療法専攻一年生の大谷明香（おおたにはるか）さんがゴールキーパーとして出場し、見事に3位に入賞しました。

埼玉県チームは、一回戦徳島戦を十―〇、準々決勝北海道戦を十一―二と圧倒的な強さで勝ち進み、事実上の決勝戦と目された兵庫戦でも前半一点のリードを奪いました。後半に二点を奪われ、惜しくも逆転負けを喫しましたが、3位決定戦では岡山に対して、三―一と危なげなく勝利し、3位入賞を果たしました。
今後の大谷さんの活躍を大いに期待しましょう。

元気のレシピ（作り方）

青島健太客員教授の講演（要旨）



声の出し方、高さには、その職業によってきまった形があるものです。パートの案内嬢の「毎度ご来店いただきまして……」という落ち着いてゆったりした声、上野のアメ横のおじさんの「安いよ、安いよ」と半ば叫んでいるような甲高い声など、その声を聞くだけで何の仕事かがわかってきます。
スポーツの世界では、この声の出し方が特に大切になります。私は、御覧の通り体が大きく、また声も大きかったので、社会人チームに在籍していた時は、監督に請われて元気をなくしている部員を集めて、元気を出させる方法を伝授する役目を仰せつかっておりました。教えた内容とは何のことはない、相手から見ると元気があるなど思わせるには、声の出し方が最も重要であ

るということを繰り返したに過ぎないのですが。
これから医療現場に携わろうとする皆さんにとって、今申し上げたことは大変に重要なことです。なぜなら、患者さんは皆さんの発する声を通して、信頼感を抱くようになるからです。「元気があるな」「ハキハキしているな」といった、声を通して伝わる信頼を基礎として本格的な治療に発展していくものだろうと思います。
信頼感が深まることによって治療がスムーズに進み、そのことによって自分自身が元気をもらいうことになるのですから、学生の皆さんも、改めて「元気の出る」声の出し方を考えてみてください。

父母後援会が発足!

十一月三日の大樹祭当日に、本学会議室において、日本医療科学大学父母後援会設立総会が開催されました。

在學生二・三九名のうち、出席者が十六名、委任状を提出された方が百四十七名と過半数の百二十を上回りました。

新藤理事長のあいさつの後（要旨別掲）、後援会規約の案が承認され、会長を初めとする役員が選出されて、正式に父母後援会が発足しました。

新会長より、会費の納入の関係から実質的な活動は平成二十年四月以降となること、四月三日の入学式の後、第二回の総会を予定していることが補足されて、設立総会は終了しました。

総会后、本学の加藤元繁教授が「大學生をもつ家庭の心理学」と題する記念講演を行い、現代の大学生の心理を分析・説明した後、どんな小さな悩みごとでも、本学の学生相談室を活用してほしいと強調されました。

選出役員

会長	池上喜雄
副会長	小島 彰
監査	大山佳江
幹事	高田和子
	廣岡栄子
	大竹 法
	古正愉月

大学と父母の連携こそ成長の礎

父母後援会での
新藤理事長挨拶

(要旨)



挨拶する新藤理事長

本学会に父母後援会を設けたいというお願いを致しました所、過半数を大きく上回る百六十名以上の御賛同を得て、本日こうして設立総会が開かれました事に対し、法人を代表して厚くお礼申しあげます。

私自身や今日ご出席の皆様は、皆様の学生時代と、現在の学生の皆さんの置かれている環境は著しく変わって参りましたが、親子が子供を思う気持ちに大きな変化があるとは思えません。しかしながら、昨今の若者が引き起こす事件の数々を見聞きするにつけ、昔とは違った保護者の理解が必要になってきているような気が致します。

幸いにして本学会に学ぶ学生は、それぞれの将来像を明確に持った者の集まりではあります。四年間という時間の経過の中では、予想しえない悩みや挫折を迎えることがあるかもしれません。したがって、大学と父母の皆さんとの連携の強化が強く望まれる時代であると思っております。

その重要な役割を本日設立された父母後援会に託したいと考えておりますし、本学会としても父母の皆様の見解に真摯に耳を傾けて会の運営の手助けをしてまいりたいと思っております。で、今後の御協力をお願いする次第です。

学生相談室について

本学会では、学生の生活上の諸問題を相談する場として「学生相談室」を設置し、カウンセラーとして加藤元繁教授に業務を委嘱しております。匿名で受け付け、内容についての守秘義務を厳守しますので、学生本人だけでなく、御父母の皆様も遠慮なく御利用下さい。

(Tel) 049-230-5020 E-mail kato@nims.ac.jp
いずれも加藤研究室

編集集「後記」

大学開学から約一年が経過し、大学内の体制も整ってきました。広報誌「大樹の礎」第二号は、できのよし悪しはともかく、広報委員会の主導の下、三人の編集委員の手によって発行する運びとなりました。忌憚のない御意見を頂ければ幸いです。

二期生を迎える、平成二十年度日本医療科学大学入学式は、四月三日（木）に、川越プリンスホテルにおいて挙行されます。引き続き、父母後援会第二回総会も行われます。